

## ◆東京ニューシテイ管弦楽団 第51回定期演奏会

東京ニューシテイは、毎回新たな企画に挑んでいる意欲的なオケだ。今回も、シヨパンはパデレフスキー版ではなく、作曲家の考えに忠実な原典版としてポーランド国家が編集

したナシヨナルエディション版を用いていた。また当時の楽器の演奏法であるピリオド奏法（ヴィブラートが殆どかからない独特な弓使い）によっていたが、全体を通して淡白な演奏で、細部におよぶミスが明らかになってしまった感は否めない。原

典主義を用いる意義に基づいた、奏法上の更なる工夫が必要だろう。シヨパン「ポーランド民謡の主題による幻想曲」「ピアノ協奏曲第1番」では、素朴さは生かされていたものの、各音の重みが少ない分、オーケストレーションの薄さが気になってしま

ったし、パート間の音量バランスには一考の余地あり。メンデルスゾー「交響曲第3番」は、活発なりズム感で透明感が溢れ、好感が持てた。指揮は内藤彰、ピアノは河合優子。（6月8日、東京オペラシティコンサートホール）

（生田美子）